

【個人研究】

自立と責任のライフステージ、スウェーデンモデル

藤 田 雅 子*

Life Stage of Independence and Responsibility in Sweden

Masako FUJITA

The conception of sex roles influences child raising. After having a baby, mother or father takes their statutory 15 months of maternity leave. The Swedish man seems to take care the children as much as his wife did.

Sweden spends more tax money on primary and secondary education than any other country in the world. Recently DAGHEM (day care) changed to FORSKOLA (pre school). GRUDSKOLA is compulsory 9 years of schooling for all children beginning at 6 or 7 years old. GYMNASIUM (high school) plays the role of occupation training without the next stage of education.

Women make up half of Swedish workforce. In Sweden full-time housewife disappeared. Men and women, both gain money by labour, raise their children and do domestic duties. Both sex have equality of opportunity for men and women. But still now certain differences exist and women have to fight for getting the real equality. In addition to their paid jobs, women tend to have the overall responsibility for the home. As labour the Swedish are tied up in union gathering. They accurately take their statutory 5 weeks of annual vacation.

Swedish retirement age is 65 years old. Then they live on their pension. The elderly are treated sympathetically. The Swedish politics has been dominated by five main parties. Sweden was run continuously from 1932 to 1976 by the social democracy politicians who created the Swedish welfare state.

The Swedish will for learning does not end with secondary school or university. They gather to evening classes where they study everything. The young and middle age group are on the training course. The aged draws up a class plan and learns by small fee. Immigrants even earn a little salary by attending classes to learn Swedish.

This essay is about the Swedish life stage from the cradle to the grave.

*ふじた まさこ 文教大学人間科学部人間科学科

はじめに ライフステージと社会サービス

誕生から死まで、人間は赤ちゃんから高齢になるまで一定のライフステージを通過する。各々のライフステージに応じた人生を全うするために、スウェーデンの自立と責任を重視した個人生活と、それをサポートする社会的連帯の関係について探求したい。

赤ちゃんはもっとも保護を必要とし、高齢者は個人差があるが人生の終末においてやはり保護が求められる場合もある。幼児や青少年は人生の基礎を作り、徐々に保護を減少させ、自立へと向かう。そして子どもと高齢の間は、労働し、税金を納める稼働年齢で、このライフステージの人びとが子育てとともに、親世代の高齢者の介護をしながら働けば、社会は安定する。労働者かつ納税者が確保できるからである。第1表に示すように、スウェーデンの全人口に占める未成年人口は22.2%、高齢者人口は17.4%で、稼働年齢は60.6%である。

第1表 年齢別人口
(1998年12月31日)

	17歳以下	18～64歳	65歳以上	計
男性	999,504	2,725,967	650,148	4,375,619
女性	947,795	2,643,400	887,508	4,478,703
計	1,947,299	5,369,367	1,537,656	8,854,322
(%)	(22.0%)	(60.6%)	(17.4%)	(100.0%)

STATISTISK ÅRSBOK for Sverige 2000

個人的に子どもの育児と高齢者や障害者の介護を解決しようとすれば、そのような役割をもつ家族が必要になり、育児や介護をしながら労働を継続するには困難が伴う。制度という社会の連帯で解決すれば、社会サービスとして育児や介護の応援が得られて、稼働年齢の世代は、労働に専念できるうえ、国や地方公共団体の財源となる税金や社会保険料を産出する。しかも社会的に教育や福祉を高レベルに維持するには雇用の確保が必要であるから、この部門の労働人口を増加させることになる。

1. 望まれる子ども

(1) 人生の始まりは平等

スウェーデンで生を受ける赤ちゃんは、生まれた瞬間から制度上すべて平等である。親の結婚形態による区別はない。両親が同じ名字を名乗る「夫婦同姓」、両親の名字が異なる「夫婦別姓」、婚姻届を出さない「事実婚」であっても生まれてくる赤ちゃんは平等の人権をもっている。スウェーデンは人口の1割以上(12.0%、1998年)が外国出身または外国籍である。両親または父親か母親のいずれかが外国人であっても、生まれてくる赤ちゃんはスウェーデン人の赤ちゃんと同等の権利をもつ。

赤ちゃんは生まれた瞬間から個人番号(Person nummer)をもち、登録される。この番号は一生変わらず、人生の途上でさまざまな社会サービスを受ける場合に必要になる。誕生間もない赤ちゃんが退院してくると、母親宛に児童手当金の申請用紙が届いている。親の所得如何にかかわらず、義務教育修了まで、一律の児童手当金(Barnbidragpenning)が支給される。2000年現在の手当金を第2表に示す。第1子と第2子は同じ金額で月額850krだが、第3子になると加算金が付き、第4子になると加算金は多くなる。好景気が続いていることもあって、来年2001年1月より、100kr増額されて950krとなる予定である。

第2表 児童手当金(月額)

子どもの人数	単位 月額(kr)		
	児童手当金	多子加算金	児童手当金合計
1人	850kr	-	850kr
2	1700	-	1700
3	2550	227kr	2777
4	3400	907	4307
5	4250	1757	6007

(NACKA 社会保険事務所)

赤ちゃんを生むのは母親であるので産休は当然であるが、父親もわが子が生まれる時に、10日間の休暇を取得する。もちろん母親も父親も有給である。育児休業(Barnledig、

両親保険金 Foraldrapenning) は1人の子
どもに対して両親合わせて450日まで取れる。
このうち360日までは給与の80%程度が保障
され、残る90日は定額のみだが1日につき6
0krが支払われる。子どもの誕生から連続し
て休みを取らなければならないというわけ
ではなく、子どもが8歳になるまで貯金して
おけるという便利な育児休業である。母親も
父親も取る休業で、両親の取る育児休業を
合わせて450日と計算する。ただし、一方
の親に任せたまにはできず、子育ては母
親のみならず父親も当然義務をもつ制度
で、父親も母親も必ず1か月の育児休
業を取らなければならない。450日の全
育児休業に対して所得保障をする方向
で与党の社会民主党内で合意を得て
いるので(2000年9月現在)、近い将来、



写真1 育児を楽しむ育児休業中の母親



写真2 育児休業は父親も、最低30日は義務

実現するだろう。

幼い子どもは免疫力が弱く、病気もしやすい。1人の子どもに対して看護休業 (Tillfällig foraldrapenning) を1年に120日まで取ることができ、有給である。子どもの育児や看病のために収入が減ったら生活に響くため、この所得保障は重要である。

専業主婦という選択肢はないに等しく、女性も労働に従事するのが当然である。夫婦で働いてこそ高水準の家計が維持できるので、育児や看護のために収入が目減りしたら大問題である。このような経済保障は国の役割で、社会保障費の資源になる社会保険料は企業が納め、個人の負担はない。その全体像は、この小論の最後に第18表として載せる。

少子化に対する先進諸国の不安は大きい。将来の労働者かつ納税者が減少すれば、社会が維持できなくなる。少子化はさらなる高齢化につながり、社会的サービスを必要とする人口構成比が増大するために、どうにかして子ども人口を増大させなければならず、そのためには妊娠と出産が可能な親世代に子どもが産まれるように、そして現在の労働者かつ納税者である両親が働きながら子育てができる環境条件を整備する必要がある。

第3表に育児休業と看護休業を延べ日数から男女別に取得状況を示す。育児休業は最近では母親88%、父親12%と男性の少なさが社会的批判を浴びている。女性は乳児の世話は女性の役割と考える傾向があるとの調査結果が新聞をにぎわし、女性は育児を楽しみ、男性は育児の義務を遂行しているようでもある。看護休業は母親と父親の比は2対1である。

(2) 保育園ではなく就学前学校

親の育児休業が終わると、子どもは保育園 (Daghem) に通うようになる。以前は保育園は厚生省の管轄であったが、1998年から文部省の管轄下になり、「就学前学校 (Forskola)」と名称も改めた(この小論では保育園と表わす)。子どもは年齢に関わりなく学習する存在であるからで、この移管によって保育内容

第3表 育児休業と看護休業の男女別推移

(1974～1999年)

年	育児休業延べ日数			看護休業延べ日数		
	(数字×1000日)	年間の男女比(%)		数字×1000日)	年間の男女比(%)	
		女性	男性		女性	男性
1974	19,017	100	0	689	60	40
1980	27,020	95	5	3,042	63	37
1985	33,193	94	6	4,156	67	33
1990	48,292	93	7	5,731	65	35
1995	50,393	91	9	4,911	68	32
1996	42,177	89	11	4,516	69	31
1997	37,905	90	10	4,489	69	31
1998	36,327	90	10	4,468	68	32
1999	36,036	88	12	4,461	66	34

På tal om kvinnor och man 2000

に大きな変化はない。

子どもが幼いうちは親が労働時間を短縮、あるいは父親と母親がフレックスタイムを利



写真3 母親まかせにしない育児



写真4 兄弟姉妹の絆も大切

用して、保育時間が長くないように調整する。日本のような長時間保育は考えられないし、無認可保育所の類いは存在しない。しかも専業主婦がいないから、母親がそばにいる子どもと、母親が仕事をもち子育てのサポートが必要な子どもとに2分されない。父親はもちろん母親も仕事をもつ労働者であるから、社会構造は単純であって、子育てに社会的サービスが必要であるという社会的合意を得ているし、子どもの側からすれば、父親も母親も働いており、社会サービスを利用するという同一の条件下で、育つ。保育園はコミュン(市町村)が運営する。義務教育も高等学校も無料であるが、保育園は親の収入に応じて保育料を払う。

日本の働く母親にとって、子どもが病気をすると保育園を利用できず問題となっているが、スウェーデンでは看護休業を利用するので、堂々と休み、収入も保障される。

2. 学校教育

学校教育は、日本の小学校と中学校に当たる基礎学校(Grundskola)が義務教育で9年間である。ほとんどの子どもが高等学校(Gymnasium)に進学し、これは3年制である。大学(Högskola)への進学者もいるが、義務教育と高校教育の12年間で、社会に通用する人間を育て上げ、社会を支える労

働者に仕立てあげるのであるから、教育に対する期待は大きいし、実際にどのコミュニティも教育に当てる費用は巨額を投入している。ストックホルムの場合、赤ちゃんから高齢者までが1年間に3万krの所得税を納める計算となるが、このうちの4800krが基礎学校に、2590krが就学前学校に使用され、両方で市予算4分の1を占める(2001年の予算。市の広報紙より)。

基礎学校は、まさに人生の基礎を培う義務教育で、高校教育は職業人の養成が目的である。労働ができ、納税する人間の養成は誕生後18年間で完結する。選挙権を得る年齢で、成人の仲間入りである。子どもの自立と引換えに親も社会も子育てを終了する。

大学に直接進学する率は20数%である。社会経験を積んでから大学に入学する者も多く、大学生の平均年齢は20代半ばである。高校から直接入学するにしても、実社会を迂回するにしても、大学生は大人であるので、親のすねをかじることはなく、奨学金(返済義務のある公的教育ローン Studielån)を借りて自分で生活をしていく。将来は労働しながら返済するので、借金を背負うことになる。

一方、義務教育就学前の保育園が学校教育の中に位置づけられる以前も、保育園は親が働いているから子どもを預かるという消極的な理由ではなく、子どもが社会的な存在に成長、発達するのをサポートするという点に重点があった。第13表に示すように母親は働いているか学生であっても、子どもは保育園や保育ママを利用してきていた。乳児期は親が育児休業を利用して密着した子育てをするが、義務教育に移るまでのライフステージは

子どもの発達は著しく、貪欲に学習する。保育に積極的に教育の意味を加え、学校教育に組み入れたのはこれまでの実績の結果である。両親と社会サービスとの共同作業として子ども



写真5 基礎学校では人生の基礎を学習

もを保護し、世話し、教育する。例えば、男女平等、自然との共存、対人関係の構築などこの時期だからこそできる学習は多く、幼児期に培われた価値観は、人生に大きな影響を与える。社会人になる地盤固めがなされる。

学校教育の現状について簡単に見ておこう。義務教育の基礎学校では、日本の小学校に当たる期間は通知表がない。しかし高等学校の入学は日本の中学校に当たる時期の成績如何であるので、基礎学校の9年間の教育期間には大きな変化がくる。しかも高校での職業教育が、人生を大きく左右するし、それを決めるのは基礎学校の8年生あるいは9年生のときで、14~15歳で職業など進路を選択することになる。

そこで日本の中学校の2年生と3年生に当たる基礎学校8年生と9年生の学校教育の様子を見てみよう。基礎学校はコミュニティ(市

第4表 基礎学校の年間スケジュール

2000年春学期		
1月10日(月)	8:15	春学期開始。平常授業
1月12日(水)	13:00	生徒会
1月21日(金)		生徒会
1月24日(月)		高校入学願書提出
1月26日(水)	19:00	7年生の父母説明会(8年生進級に向けて)
1月26日(水)	13:00	給食委員会
1月27日(木)	13:00	生徒会

1月27日(木)	13:00	生徒会
1月27日(木)	19:00	8年生の父母説明会(9年生のコース選択)
2月2日(水)	19:00	就学前学校の小学校入学ための父母説明会
2月3日(木)	19:00	1年生~3年生に対する父母説明会
2月5日(土)	9:00	6年生に対する父母説明会
2月5日(土)		8年生、9年生に定期券を配布
2月5日(土)		オープンハウス(学校公開日)
2月7日(月)		代休
2月9日(水)	18:30	父母学級代表集会
2月9日(水)	19:00	5年生の父母の説明会
2月9日(水)		9年生のスウェーデン語の全国共通実力試験
2月11日(金)	13:00	生徒会
2月14日(月)		6年生と7年生に定期券を配布
2月18日(金)		冬季スポーツデー(全校)
2月21日(月)	8:15~10:00	学校運営委員会
2月21日(月)		個別学習指導開始 ~4月14日
2月24日(木)		「組織」についての生徒の評価
2月28日(月)		スポーツ休暇開始
3月3日(金)		スポーツ休暇終了
3月7日(火)	13:00	生徒会
3月9日(木)	13:00	給食委員会
3月16日(木)		9年生の英語全国共通試験(英語B)
3月22日(水)	13:00	生徒会
3月22日(水)	18:30	父母学級代表集会
3月24日(金)		9年生の英語全国共通試験(英語C)
3月29日(水)		復活祭の休み(~4月1日)
4月3日(月)		8年生職業実習の開始(2週間)
4月3日(月)	13:00	給食委員会
4月6日(木)	13:00	生徒会
4月12日(水)	19:00	6~9年生父母に対する薬物と麻薬に関する説明会
4月12日(水)		7年生のテーマ学習「私とあなた」
		9年生のテーマ学習「イデオロギーと民族」
4月13日(木)		9年生の数学全国共通試験(数学C)
4月13日(木)		7年生と9年生、テーマ学習の継続
4月14日(金)		個別学習指導の終了
4月14日(金)		8年生職業実習の終了
4月14日(金)		7年生と9年生、テーマ学習の継続
4月17日(月)		休校
4月18日(火)		休校
4月19日(水)		休校
4月20日(木)		休校
4月21日(金)		祭日(復活祭)
4月24日(月)		祭日(復活祭の後祭)
4月28日(金)	13:00	生徒会
5月1日(月)		祭日(メーデー)
5月2日(火)	13:00	給食委員会
5月3日(水)	18:30	父母学級代表集会
5月3日(水)		9年生数学全国共通試験(数学B)
5月8日(月)	8:15~10:00	学校運営委員会
5月8日(月)	13:00	生徒会
5月10日(水)		全学、募金活動日(海外援助などのため街頭募金)
5月11日(木)		3年生の交通指導の実際
5月11日(木)		午前中、8年生の自然学校プロジェクト(サバイバル)
5月17日(水)		7年生のテーマ学習「自然とスカンセンの水族館」
		8年生のテーマ学習「ストックホルム」
		9年生のテーマ学習「性と結婚」
5月18日(木)		テーマ学習の継続
5月19日(金)		テーマ学習の継続
5月23日(火)	13:00	生徒会
5月23日(火)		午前中、8年生の自然学習プロジェクト
5月25日(木)		午前中、8年生の自然学習プロジェクト
5月30日(火)		午前中、8年生の自然学習プロジェクト
5月31日(水)		教員の研修のため休校
6月1日(木)		祭日(昇天祭)
6月2日(金)		休校
6月8日(木)		学年末

第5表 基礎学校の年間スケジュール

2000年秋学期		
8月21日(月)	8:15	秋(新)学期のスタート
8月21日(月)		生徒の写真撮影。10月にアルバム完成
8月22日(火)	8:30~14:00	生徒の写真撮影。10月にアルバム完成
8月28日(月)	13:00	生徒会
8月29日(火)		教員研修のため休校
8月30日(水)	19:00	3年生の父母会
8月31日(木)	19:00	4~6年生の父母会
9月4日(月)		4~6年生の自由選択教科の選択
9月4日(月)		7年生のテーマデイ
9月4日(月)		8年生の火災教育
9月4日(月)		9年生のテーマデイ
9月5日(火)		4~6年生の自由選択教科の選択
9月6日(水)		7年生の読書学習の開始
9月12日(木)		作文コンテストの開始
9月12日(月)	12:30	消火訓練
9月14日(木)	19:00	7年生の父母会
9月14日(木)		1年生の交通指導(人形劇)
9月20日(水)	18:30	父母学級代表会
9月20日(水)		野外学習(就学前学校を含めた全校)
9月21日(木)	19:00	8年生と9年生の父母会
9月25日(月)	8:15~10:00	学校運営委員会(学校側)
9月25日(月)		個別学習指導の開始
9月26日(火)	13:00	生徒会
9月29日(金)	13:00	給食委員会
9月29日(金)		7年生の読書学習の終了
10月2日(月)		8年生の読書学習の開始
10月9日(月)		「学校生活の快適さ」についてのアンケート調査(生徒の評価)
10月9日(月)		5年生の交通指導(理論と実際)1時間
10月10日(火)		現代オリエンテーション
10月12日(月~金)		9年生に対する高等進学指導週間
10月16日(月)		9年生の職業実習の開始
10月19日(木)		4~6年生の自由選択教科の選択
10月19日(木)		7年生のテーマ学習「アイデンティティー」
		8年生のテーマ学習「アルコール、タバコ、薬物、麻薬」
10月20日(金)		4~6年生の自由選択教科の選択
10月20日(金)		7年生のテーマ学習「アイデンティティー」
		8年生のテーマ学習「アルコール、タバコ、薬物、麻薬」
10月25日(水)	13:00	生徒会
10月26日(木)	13:00	給食委員会
10月26日(木)	19:00	6~9年生父母に対する薬物と麻薬に関する説明会
10月27日(金)		9年生の職業実習の終了
10月27日(金)		作文の完成終了
10月30日(月~金)		休校(~11月3日)
11月6日(月)		9年生の読書学習の開始
11月13日(月)		個別学習指導の終了
11月15日(水)	18:30	父母学級代表会
11月20日(月)		8年生の交通指導(60~80分、科目)
11月21日(火)		8年生の交通指導(60~80分、科目)
11月22日(水)	13:00	給食委員会
11月23日(木)	13:00	生徒会
11月27日(月)	8:15~10:00	学校運営委員会
11月28日(火)		作文コンテストの表彰
11月29日(水)	19:00	9年生の進路決定相談会(AとB)
11月30日(木)	8:00~9:05	7~9年生の学習科目担当教員打合せ会
11月30日(木)	19:00	9年生の進路決定相談会(CとD)
12月1日(金)		9年生の読書学習の終了
12月21日(木)		7~9年生の秋学期総仕上げ
12月21日(木)		給食の後、秋学期終了
2001年春学期		
1月8日(月)		春学期開始
1月8日(月)	8:00~17:00	学校関係者の打合せ(生徒は休校)
1月9日(火)		平常授業

町村)による公立学校で、国の学習指導要領的なガイドラインはあるものの、各学校の独自性に任されており、学校ごとの特徴を出すと同時に基礎学校の共通性ももたせてある。

3. 職業実習もある中学生

(1) 学年暦 (Elevkalendarium) から見た義務教育の仕上げ

8年生と9年生を中心に基礎学校の学年暦を概観してみる。第4表と第5表は、ストックホルムの基礎学校の2000年度年間スケジュールである。新学年は夏休みが終わる8月中旬から始まりクリスマス休みまでが秋学期で、冬休みが終わる1月からが春学期で、6月中旬に学年を終了する。秋学期に1週間程度(前後の週末を入れるので9日間)の秋休みがあり、春学期にはやはり1週間のスポーツ休暇 (Sportlov 9日間)があり、ほかに復活祭の休みが数日入る。第4表は後期の春学期で、第5表は前期の秋学期である。

これらの学年暦から主な特徴をピックアップしてみよう。8年生(中2)も9年生(中3)も職業実習 (Prao)があり、学年ごとに全生徒が参加する。高校入試に向けて点取りにあくせくする日本とは大きな違いである。4~9年生は、平常の授業とは違うテーマ学習の日があるのも特徴的である。野外学習の日や募金活動日など、自然とふれ合う機会も豊富で、海外援助のために街頭募金を実践してみる。生徒の意見を学校生活に取り入れるために、生徒会のほかに給食委員会があるし、学校生活の快適さについて生徒に対してアンケート調査を実施する。外部に対しては学校公開日を設けて、だれでも学校の様子を知ることができるようにしている。春学期になると最終学年の9年生はスウェーデン語、英語、数学の全国共通試験が実施され、生徒の学力が明確になると同時に、その学校の学力程度の位置づけもなされる。

共働きなので父母会 (Foral dramote) が夕方の午後7時から開催される。生徒の指導と並行して、8年生の父母には春学期から始

まる高校のコース選択説明会があり、9年生では秋学期に最終的な説明があり、11月には進路決定の相談会がある。年が明けた春学期の1月に高等学校へ願書を提出することになる。

(2) 授業内容と個人を考えた多様性ある時間割 (Schema)

第6表は8年生、第7表は9年生の時間割であるが、日本の中学校のように単純ではない。授業の開始時間や終了時間は曜日によって異なるし、科目ごとに授業時間が違い、しかも秋学期と春学期で科目を入れ替えたり、選択科目や習熟度別のグループ編成があるし、個別相談が設けられていたり、複雑である。授業内容や個人の関心や能力などに応じるためにはこのような柔軟性が求められるのだろう。

これらの時間割を解読するための情報を書き出してみる。

語学は国語のスウェーデン語と英語は全員が必須で、とくに指導が必要な生徒を取り出し授業の形態で指導している。第2外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語からの選択であるが、英語にさらに磨きをかけたい生徒は第2外国語でも英語を選択するし、外国籍や外国出身でスウェーデン語が十分でない生徒はスウェーデン語を選択する。ちなみに日本のように英語が必須科目でも英語が話せないといった不十分な教育ではなく、中学校卒業の頃には、英会話には不自由しない程度の実用的な教育である。

数学は習熟度別のグループ分けによる授業をする。社会科と体育は、クラス全体で行うが9年生になると社会科も一部小分けにしている。理科は実験などの関係で、少数グループに分けている。週に2回設けられている自主教科学習は、生徒が科目を選択する授業で、家庭や体育を選ぶ生徒もいる。

家庭、木工、裁縫などに将来の家庭生活に必要な教科にも力を入れる。例えば、8学年は秋学期に音楽をやれば、春学期には家庭、

第7表 グップエング校 9年生時間割(中学3年生)

2000年8月~2001年6月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
08:00					08:00 体育
:30	08:15 社会	08:15 スウェーデン語	08:10 春学期		08:15 自由選択教科
09:00	08:55		08:50 秋学期		
:30	9:00 第2外国語	09:15 理科	家庭	09:35 社会	09:20 第2外国語
10:00	10:10 音楽(A)	10:25 昼休み	10:10 木工 または 裁縫	10:10 社会	10:25 第2外国語
:30	10:50 社会(B)		10:30 数学	10:55 昼休み	10:35 英語
11:00	昼休み	11:25 英語	11:20 数学	11:25 ホームルーム	11:15 昼休み
:30	11:30 技術(B)	12:05 社会	11:50 昼休み	11:45 ホームルーム	11:50 昼休み
12:00	11:50 社会(A)	12:15 社会	12:15 理科	11:50 理科	12:15 スウェーデン語
:30	12:40 数学				
13:00	13:35 個別相談	13:25 音楽(B)	13:15 理科	13:10 個別相談	13:10 数学
:30	14:00 体育	14:20 技術(A)	13:25 第2外国語	13:15 個別相談	13:25 数学
14:00	14:10 体育	14:40 自由選択教科	14:20 第2外国語	13:55 体育	14:15 数学
:30	14:50 自由選択教科	14:45 自由選択教科	14:25 スウェーデン語	14:50 体育	
15:00		15:50 家庭	15:25 スウェーデン語	15:10 英語	
:30				15:45 英語	
16:00		16:10 家庭			

第8表 学校給食（ストックホルム県下のコミューン）

コミューン名	献立
ポートシルカ	豚肉のグラタン
エーケロー	ソーセージのストロガノフ、ライス、ピーマンのスライス
フディング	牛肉塩漬け、ポテト
イエールフェツラ	マカロニグラタン、リンゴン（こけもも）ジャム ドレッシング和えマカロニサラダ、ビート入りハンバーグ
リーディング	ミートローフ、ポテト、サラダ ヴェジタリアン特別食
ナッカ	赤かぶのピクルス添えピティパンナ(スウェーデン家庭料理) 黒豆添えかぶのミックスサラダ
サーレム	鱈の船員風料理、サワークリームソース、ポテト
シグチューナ	マカロニ、ミートボール マカロニ、庭師風サラダ
テービィ	メキシコ風挽き肉料理、ライス、コーン（とうもろこし）
ウップランド・ブロー	チキンサラダ、ソース
ウップランド・ヴェスビー	魚のグラタン、ポテト ヴェジタリアンのミックス野菜の炒め物、ライス
ヴァレンチューナ	レモネードソースつき鱈のムニエル、ポテト、千切り人参
ヴァックスホルム	オーブンで焼いたソーセージ、マッシュポテト、サラダ
レーサルエー	ミートボール、マカロニ ジャムつきパンケーキ、サラダ
オステルオーケル	スモーゲン地方風ソースつき魚のグラタン、ポテト、千切り人参

DAGENS NYHETER（ダーゲンス・ニィヘッテル紙）2000年8月29日「今日の学校給食」

第9表 高等学校のコース（2000～2001年）

略号 コース	進路（例）
BF 保育・学童保育	保育・障害児保育 学童保育・余暇指導（プールやスポーツクラブの運営）
BP 建設	建設現場・建築塗装・板金・断熱材施工・基礎工事
EC 電気	製造業のコンピュータ操作・電気の管理と保全・電気工・コンピュータ技師
EN エネルギー	発電・機械一般・船舶機械・配管・冷房関係の設置
ES 芸術	芸術の基礎教育・子どもに対する芸術（ダンス・劇・絵画・音楽）の仕事
EP 自動車	自動車修理・販売・トラック運転・自動車の塗装・航空機の整備
HP 商業	仕入れ、販売、商業に関する仕事全般、市場調査、宣伝と広告、旅行案内
HV 手先の技術	理容と美容・花屋・織物・時計修理・壁紙の張り付け
HR ホテル レストラン	コック・ウェーターとウェイトレス・レセプション・催し・ルームサービス
IP 工業	製造業・繊維・縫製・大工
LP 食品	パン・菓子・生鮮食品の販売・食肉
MP メディア	ジャーナリストの基礎教育・ラジオやTVの基礎教育・グラフィック・写真・広告・情報担当
NP 農業・牧畜・森林	ガーデニング（庭師）・家畜飼育
NV 自然科学	大学教育の準備
OP 看護・介護	准看護師・障害者や高齢者の介護
SP 社会科学	大学教育の準備
工科	大学教育の準備または職業につながる（技術系の仕事は技術の進歩によって性格を変える）

は大学進学をめざす。 以外は職業準備教育資料 Information om gymnasiet info lasäret 2000/2001
（基礎学校の進路指導資料）

秋学期に家庭をやれば春学期には音楽である。木工と裁縫は生徒の選択によるが、男子が裁縫を選んだり、女子が大工を選んだり、男女による区別はない。保育園の頃から、裁縫と大工は男女ともに行っている。

このように柔軟生のある日程であるので、例えば個別相談のない生徒は、その時間を自由に使えるので自宅に帰る生徒もいるが、次の時間までに学校に戻っていれば問題はない。日本のように始業時間からずっと固定的な集団で縛られているわけではない。

「食事」に関して見ておこう。基礎学校から高等学校まで給食があり、昼休みを利用するが、時間割からわかるように昼休みの時間も曜日によって違いがある。保育園、基礎学校、高等学校そして介護の必要な高齢者が住む年金生活者アパートのレストランなど、食事のサービスが必要な場所には給食サービスが網羅している。ここで学校給食のメニューを第8表に掲載する。コミュニケーションによる違いやベジタリアン対象など興味を引く。人生にとって食べることは重要である。稼働年齢中の人は給食の対象にはならないので、昼食は町のサービスランチ（Dagenslunch）がにぎわう。

(3) 進路決定と職業人への歩み

学年暦に示されるように、8年生と9年生にとっては職業実習があり、進路決定の一環となる。8年生は職業生活を体験する目的であるが、9年生は自分の進路との関係で実施する職業実習であり、より現実性を増していく。父母を対象に進路説明会や相談会も開催される。

高等学校は3年制で、本人の希望と基礎学校（中学校）の成績によって進学先が決まる。

高等学校に入学するための資格として、基礎科目（スウェーデン語、英語、数学）の単位が習得されていることが条件である。新聞報道によると（Dagens Nyheter、以下DNと略す。DN2000年8月12日）9年生の生徒のおおよそ10%が未習得であるが（1998年

91.4%、1999年90.4%、2000年89.5%が習得。教育庁発表）憂慮されるような事態ではなく、単位を落とした者の16%は夏休みの補習で条件を満たし、72%は個別指導に入っており、最終的には12%だけが無理だったが、9年生全体の99%が高等学校に進学したという。

スウェーデンには多くの外国人が住む。基礎学校の約100万人の生徒のうち、アラビア語、フィンランド語、ボスニア（セルビア）語、スペイン語、ペルシャ語、英語、トルコ語などスウェーデン語以外を母語とする生徒は12万人ほどで、全体の11.8%を占めることを考えれば（STATISTISK ÅRSBOK 2000）9年生の1割が基礎教科の条件が満たさないからといって、学力が低いとはいえない。

第9表に高等学校のコースとその特徴を掲載する。全部で17コースあり、表の印は大学に進学するためのコースで、自然科学、社会科学、工科の3コースが主なものである。

以外は全て徹底した職業教育で、高等学校を卒業すれば、職業人となる。

社会福祉の重要な人材であるホームヘルパー（介護福祉士）も高等学校の看護・介護コースの3年間で養成され、卒業すれば現場で活躍する。ただし教育大学に進学しなくては基礎学校などの教員になれないし、社会福祉士や精神保健福祉士に当たるソーシャルワーカーSWの養成は、大学での教育が必要になる。専門性の高い教育が大学にまかされているスウェーデンでは、SWも医者も弁護士も国家試験などの資格試験を必要としていない。

ところで新聞などを通して、高校生の学校に対する評価が報じられる。例えば大衆紙アフトン・ブラーデット（Aftonbladet 2000年9月4日）は、ストックホルム市内の24校について、在校生の学校に対する評価、定員に対する志願者数の比率と順位、生徒の教師に対する満足度のパーセントの一覧表を掲載している。ちなみに生徒の学校に対する満足の点数は最高が1.14で最低が0.05（普通「0」から満足「2」までの数的評価）、志願者の最高の倍率は2.54倍、最低は0.42倍、先生へ

の満足度は最高が75%で最低が24%である。全体としては65%の生徒は満足し、13%が不満足であるという。これはストックホルム市における調査結果の報道である。



写真6 大人になる日も間近、成熟した高校生



写真9 育児も労働も、父親も母親も



写真7 高等学校を卒業したら職業人



写真8 結婚は愛、簡素な結婚式

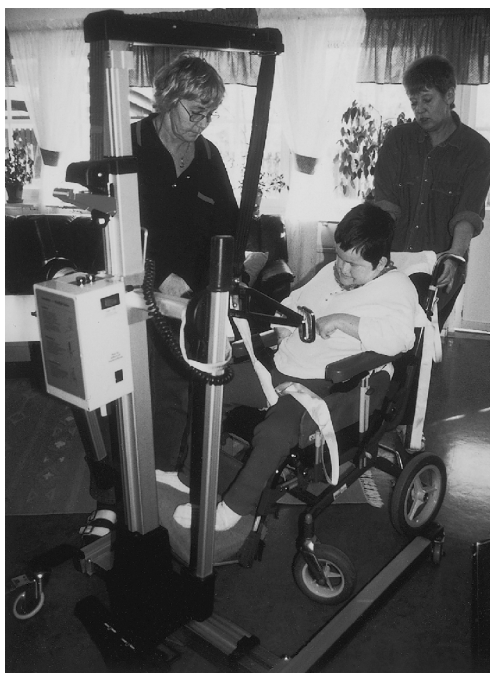


写真10 社会福祉の充実は雇用を創出

第10表 労働力人口

(単位 1000人)

性別 \ 労働者	就労者数	職を離れている数者	労働者数 小 計	失業者数	総労働者数 合 計
男 性	1816	262	2079	154	2233
女 性	1550	351	1901	122	2023
合 計	3366	613	3979	276	4255
(%)	(79.1)	(14.4)	(93.5)	(6.5)	(100.0)

STATISTISK ÅRSBOK for Sverige 2000

4. 社会サービスの財源確保の稼働年齢

(1) よく働き、休息も十分に

労働人口は、子ども、高齢者、障害者の生活を支えている。社会福祉や教育などの社会サービスも年金や各種の手当金などの社会保障も、財源を生み出すのは稼働年齢の男女である。第10表はスウェーデン全国の男女別労働力人口で、約400万人（失業者を除く）が885万人の国民を支える。

スウェーデンは労働組合への加入率が非常に高く、ブルーカラーの LO（写真12）、ホワイトカラーの TCO（写真13）、専門職の SACOに分かれる。このなかでも LO は最大で、労働力の半数に相当する加入者200万人を擁し、与党の社会民主党と連携している。

稼働年齢の間は労働に専念し産業を発展させ、企業は年金や児童手当などの社会保険料の財源を作り出し、労働者が納めた税金は地域の社会サービスを充実させる。スウェーデンでは社会保険料は個人負担ではなく、雇用主が納める。産業は世界を相手に経済競争に勝ち抜かなければならないし、労働者は賃金のみならず経済状況や、所得保障を左右する景気の動向に敏感である。一方、個人が納める所得税は地方税のみで、自分が暮らすコミュニティに納める。国民老齢年金や児童手当金、育児休業や看護休業に伴う所得保障などは国レベルで一律である。それに対して高齢者や障害者のホームヘルプなどの社会福祉サービスや、就学前学校（旧保育園）、基礎学校、高等学校といった教育は、法律などで大枠は

決まっても、コミュニティによる格差や質的な違いがあるので、税金の見返りに納税者である住民はたえず関心を求めている。

要するに稼働年齢の間、自分の子どもを育てながら、社会の連帯として社会保障も社会福祉サービスにも貢献する。第11表は職種別に男女比を、第12表はここで関心のある福祉、医療、教育について見ている。

世界が認める社会福祉サービスと質的に高い生活レベルを維持するために、スウェーデン国民は稼働年齢中は働きづくめに働くのかというそうではない。しっかりと休暇のほうも確保している。

週休2日制が徹底し、超過勤務はあってもわずかであるし、サービス残業など考えられない。さらに労働者には年間5週間の有給の休暇（セメスター Semester）が認められ、夏休みを中心にクリスマス休暇などで100%消化している。7月は「産業休暇（Industrisemester）」と呼ばれ、全国を4分割し、順次工場は地方ごと一斉に休業し、人びとは夏休みを取り、海に山に、セカンドハウスにと自然を求めて出かける。この期間に工場が閉鎖していても、人口が1千万にも満たないこの国の産業は世界を相手に競争ができるのであるから、産業の底力は大きい。労働者は夏休みの間は完全に労働を離れ、充電する。労働と余暇（余った暇ではなく、意図的に作り出した休暇である）のバランスがうまく取れている。労働も休暇も働く者の権利である。夏休みにはすでに冬の休暇の計画を立て、クリスマスが終わると夏休みの計画を練っている。

第11表 職種別、男女別労働人口と比率

職 種	女 性		男 性		同一職種における男女比	
	人数(1000人)	%	人数(1000人)	%	女 性	男 性
児童と高齢者サービス	410	22	43	2	90	10
保 健 ・ 医 療	256	14	53	3	83	17
小 売 り 業	131	7	56	3	70	30
対 人 サ ー ビ ス 業	11	1	5	0	67	33
教 育	224	12	116	6	66	34
娯楽・レストラン・ホテル	101	6	75	4	57	43
金 融	190	10	230	13	45	55
交 通 ・ 通 信 ・ 流 通	142	8	343	19	29	71
農 業 ・ 林 業 ・ 漁 業	10	1	26	1	27	73
工業（建築業を除く）	199	11	560	31	26	74
建 設 業	17	1	162	9	9	91
そ の 他	139	8	138	8	50	50
合 計 %	1828	100	1807	100	50	50
コミュン(市町村)公務員	873	48	233	13	79	21
国 家 公 務 員	93	5	123	7	43	57
民 間 企 業	862	47	1449	80	37	63
合 計 %		100		100	50	50

På tal om kvinnor och män 2000

第12表 社会福祉・医療・教育従事者

社会福祉・医療・教育従事者	人数	全産業に占める率	
社会福祉および医療	770千人	19.4%	小計 27.5%
教育および研究など	323千人	8.1%	
全労働人口	3979千人	100.0%	

STATISTISK, ÅRSBOK for Sverige 2000

休みかたも常に家族単位で、子どもが幼いころは夫婦と親子で、子どもが独立すると夫婦で休みをとる。日本のように夫が働いている間に、妻たちが群れて遊ぶという姿はみられない。

祝日は日本より少ないが、復活祭（ポスク Påsk）やクリスマス（ジュール Jul）といったキリスト教（ルーテル派）の休暇は休み、週末と合わせると数日間の休暇がとれる。夏至を盛大に祝う習慣があって、これを週末をもってくるために前日の金曜日から仕事は休

みとなる。2～3月にはスポーツウィークがあり、子どもは学校が1週間（週末と合わせて9日）休みになるので、親は残業分を返却してもらって子どもとのウィンタースポーツを楽しむ。

社会と親の人生にとって子育ての休業は大切であるとともに、将来の労働者もこのようにして育てる。子どもにとって親はかけがえない存在であるから、親が子育てをしながら労働できる環境を整備すればよいわけである。育児休業は既述したとおり、450日全て

が所得保障の対象となる見込みであるし、父親も子育て義務をもつ制度である。子どもが病気でも親は職場に肩身の狭い思いや、収入の目減りを心配せずに、看護に当たれる。すでに第3表に育児休業と看護休業の男女別推移を表わした。

夫婦で働き、共同で家事も子育てもするというのが普通の姿で、子育てが主婦である母親の役目ではない。日本では働く女性を悩ますのは子育てに加えて、老親の介護や看護の問題である。スウェーデンの場合は、高齢者介護は社会の役割として社会的サービスが解決し、稼働年齢の世代を悩ますことはない。しかし親子の絆ははっきりしている。人生の終末において肉親がそばにいてほしいと望む高齢者もいるので、年間に60日の看護休業を認める制度もあるが、利用は少ない。

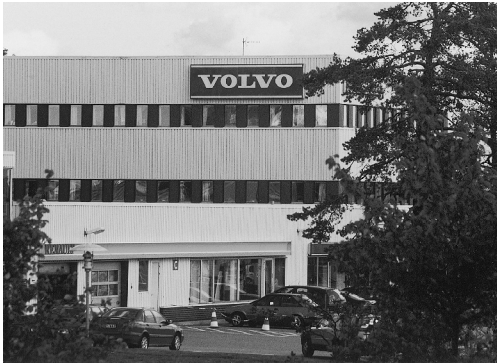


写真11 賃金と社会保障費を生み出す産業



写真12 ブルーカラーの労働組合LO



写真13 ホワイトカラーの労働組合TCO

女性の立場は日本とは大きな違いがあるので、後に特筆する。

(2) 障害のある人にも普通の生活

稼働年齢中は男女共に労働に専念するが、疾病や心身の障害を理由に労働がむずかしくなることがある。障害者も労働市場での活動が可能となるように社会は後押しをするが、労働ができなくても生活面の社会的サービスが提供され、障害年金（早期年金 Fortidpension）や住宅手当金（Bostadbidrag）が支給される。日本のように大きな施設に障害の種類や程度別に心身障害者が入所生活を送るといった姿は皆無である。入所型のケアは痴呆末期の介護やアルコール依存や薬物依存の治療くらいである。重度の知的障害者や自閉症者もグループホーム（Gruppboend）による生活が最大の単位で、個室に好みの家具を入れている。ケアワーカーが個人の生活に合わせて自立生活をサポートする。住宅に要する費用は、収入の低い高齢者や子どものいる親の場合と同じように、住宅手当金が本人宛に支給され、生活に要する費用は別途年金があるので普通の生活を営むことができる。

重い心身障害のある人も普通の生活を送ることが可能であるというモデルがスウェーデンをくまなく覆っているので、障害の子どもが生まれても親の生涯を左右するほどの出来事ではないし、親は子どもが成人になれば親

業を卒業できることがわかっている。

人生の途上で身体的な障害を残すような結果になっても、例えば車椅子でも生活可能な構造の住居が準備され、まちや乗り物も車椅子で利用できる。物理的なサポートのみで生活が不自由ならば介助スタッフやホームヘルプサービスが受けられるので、障害を受けたことによって社会から隔絶されるという社会的不利はない。

5. スウェーデン人が驚く日本女性の立場

(1) スウェーデンにおける女性の立場

日本との違いは、女性の立場に表れる。これは男女の関わり方や子育て、介護などに反映する。第13表は、稼働年齢層を就労と非就労とに分けてみた結果、女性78%、男性84%が労働に参加している。一方、無職は、女性22%、男性16%であるが、大学などに就学中、障害のために年金生活、長期療養や兵役などの理由があり、専業主婦は全稼働年齢女性の2%のみで、移民などごくわずかである。

男性も女性も働くことが当たり前の社会であるが、職種ごとに男女の差があり、第11表に示すように、女性がとくに多い職種は福祉で、保健や医療がそれに次ぐ。小売業、対人サービス、教育も女性が多い。一方、男性が多くを占めるのは建設業で、工業、農業・林業・業業、交通・通信・流通なども男性が多い。初任給を調査すると女性のほうが低いなどまだ女性格差があると、マスコミなどはたたく。

(2) スウェーデン人に映る日本女性の姿

スウェーデンにおける女性の立場を知るには、スウェーデン人が日本女性をどう見ているかを知るほうが近道である。次のような日本女性に関するスウェーデン人が書いた新聞報道がある(DN2000年8月12日)。「専業主婦であることはいいこと：夫・子ども・台所：どうせ女は社会では大変だから」という見出しである。概略を紹介する。

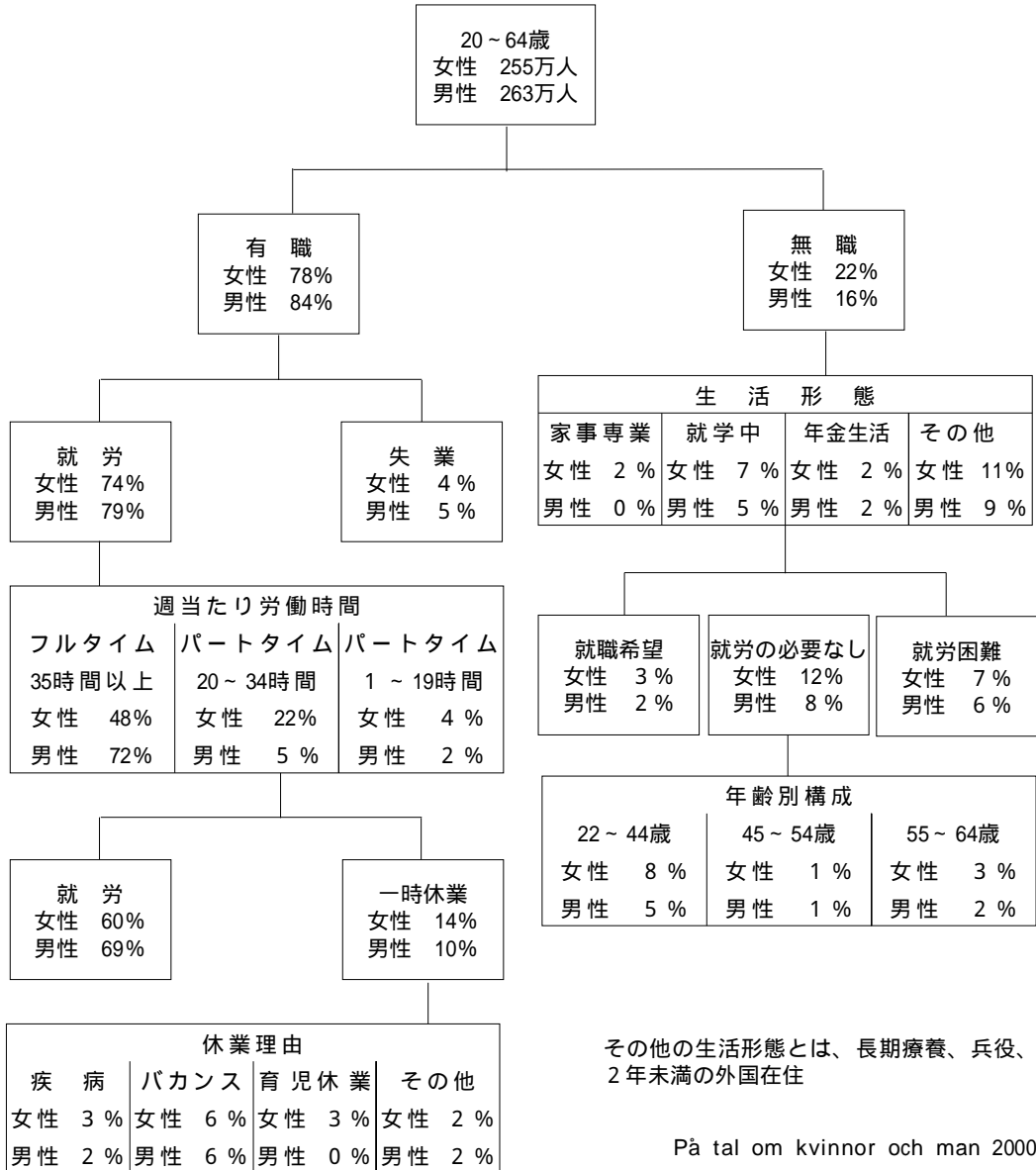
— DNの記事の要旨 —

登場するのは、海外留学の経験のある1児の母親で、都内の比較的裕福な住宅地に夫の両親と住む。夫はよい仕事に就いている。自分の親よりも夫の親との接触が多く、オトウサン、オカアサンと呼んでいる。長男と結婚したから、親の面倒を見るのは当たり前で負担であるとは受け止めていない。義理の親には世話になっているのでお返しであって、離婚でもしなければ老親介護の責任回避はできないという。結婚するまでは弁護士事務所で働き、親元から通勤していた。ボーイフレンドは何人がいたが、見合いをし、婚約中に5回くらい会って結婚した。彼女の母親がこの縁談には乗り気であった。結婚式はハワイで挙げ、親たちも同席した。東京で催した披露宴の費用は50万クローネを要したが、招待客からご祝儀をもらった。この女性の意見としては、男性は働いて、女性は家を守るのがよいと考える。

夫の親と住んでいると拘束されることもあり、義理の親が留守のときはのびのびする。夫は朝7時半に家を出て、帰宅は9時。通勤に3時間を要する。帰ってくると夫は疲れているので、夫婦の会話はあまりない。家事を手伝うこともあるが、休日は疲れていて、散歩に行こうとか、一緒に友達と会おうと思ってもなかなか付き合ってもらえない。子どもが夜泣くと夫の睡眠を妨げるので、夫は別室で寝ている。彼は結婚後すぐには子どもはいらないと言ったが、1人生まれた。実家に帰って出産した。もう1人産みたいが、窮屈になりそうで決心がつかない。保育所は少なく、女性が働こうと思っても、大変だ。

家計は彼女が全部決め、1カ月に1回夫にお小遣いを渡し、彼は銀行にいくら預金があるか知らない。自分にとってはキャリアより子育てが大切である。経済的に余裕があるから、夫も自分が仕事をすることを好まないだろう。日本の女性は職場ではっきり差別され、同じ仕事でも給料は安く、昇進も難しい。彼女の友達の多くは、家計を助けるために働き、

第13表 稼働年齢（20～64歳）の就労と非就労



ストレスはひどく、いろいろ不満がある。仕事、子ども、家事、夫の世話の全部をこなさなければならないから楽ではない。

記事はこれに続く「事実」の欄で、次のような日本女性の姿が紹介されている。

フルタイムで働く女性は増えて99年には39.7%になった。男女間の賃金格差は工業先進国では最大、最悪で、平均すると女性の賃金は男性の63%にとどまっている。税制と社会保険制度は男性に都合よくできており、妻が稼ぎ過ぎると夫の控除が減少し、税金は高くなり、社会保険料が増える。専業主婦は37%に減少し、48%の世帯が共稼ぎである。大臣21人のうち女性は1人、衆議院議員の4.6%のみが女性（6月総選挙前の結果）知事のうち2人が女性である。出生率が1.38で、世界で最低レベルである。離婚が90年代に増え、女性の結婚年齢が高くなっている。政府は、男女平等の推進を重視するようになり、男女共同参画の部局を設けたし、昨年は労働市場における差別を減少させるための法律を作った。

(3) 対照的な日本とスウェーデンの女性

これがスウェーデンの大手新聞の記事になるくらいであるから、日本における女性の地位や、ケース紹介に登場するような女性の考え方や生活形態は不思議なのである。

夫だけが働く専業主婦の妻、夫の親との同居、将来的には夫の老親の介護、家計を妻へまかせて小遣いをもらう夫、見合い結婚、夫婦の会話が少なく別々の寝室、最悪の男女賃金格差、男性に都合のよい税制と社会保険制度、国の中枢である国会議員や大臣に女性が僅少であること、少子化など、ケースからも統計からも、スウェーデン人としては信じられない日本女性といったところだろう。

スウェーデンではこの記事とは対照的である。夫婦で働き、成人したら子どもは親から独立し夫婦の単位に戻るのが当然、一家に2人の稼ぎ手がいるから家計も夫婦で決める。子どもの寝室と夫婦の寝室は別々だが、夫が

熟睡できるように妻が子どもと別室で寝るのは考えられないだろう。僅少の男女賃金格差、社会を維持するための税制と社会保険、大抵の半数は女性で、国会議員の43%も女性、少子化にブレーキをかけるために、働きながら子育てをし、高齢者のホームヘルプは社会の連帯で実施する。

写真8はストックホルムの教会で式を挙げたばかりのカップルである。DNの新聞報道に日本の盛大な結婚式と披露宴、家族ぐるみの様子、ご祝儀などについてふれているが、スウェーデンでは、男女の結びつきである結婚は、伝統的な夫婦同姓の他に、夫婦別姓（1982年より）や同棲婚（事実婚、1987年より）などさまざまな結婚形態が法的に認められ、夫婦それぞれの財産権が明確である。結婚生活を結ぶのは愛であって、婚姻届や家族制度ではない。このようにさまざまな結婚形態を社会が認めることができるのは、徹底した男女平等と女性の経済的自立という要因が大きい。したがって愛が冷めれば離婚であるが、婚姻届を出さない結婚もあり、再婚夫婦も多いようだが、いずれも統計には表われに

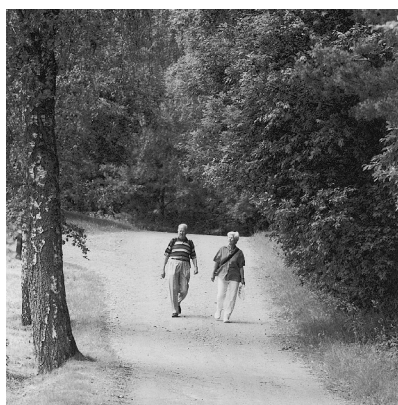


写真14 夫婦で過ごす時間を大切に

く。生まれてくる子どもは親の結婚形態や離婚、再婚によって、差別されない。

6. 高齢者の普通の生活

- (1) 生活できる年金と生活基盤としての住居
65歳以上は第1表に示したように全人口

の17.4%を占める。その内訳を第14表に載せるが、高齢者人口のうち79歳以下が72%で、80歳以上が28%である。

稼働年齢の息子や娘と、その親が同居するという住まい方は考えられないし、三世同居はない。定年直後は元気であるが、加齢とともに世話や介護が必要になる人もいるが、基本的には老人本人の自立心を尊重し、社会的サービスが生活をサポートするので、親の介護や看病に子どもの世代が振り回されるといった事態は生じない。

定年は65歳である。しかし60歳から定年を早めたり、67歳まで延長したりすることもできるが、仕事にしがみつくと傾向はみられず、定年後は年金生活に移る。60代半ばは夫婦共に健康で、自由な時間をエンジョイする余裕がある。

年金は、全ての高齢者に共通の国民年金的な「国民老齢年金 (Folkpension)」と、働いていたときの所得比例の年金で厚生年金的性格の「国民付加年金 (通称ATP Allmantillaggs pension)」の2種類がある。現役のときに高額所得があった人には、受け取る国民付加年金の限度額 (ポイント1~6.5があり、最高の6.5でも月額11,993kr、2000年現在)がある。一方、現在高齢を迎えている女性の中には、若い頃働いた経験のない人もいてATPが受けられないが、そのような人は「国民老齢年金」だけでは生活はできないので「国民年金加算金 (Pensionstillagg)」という国民老齢年金を補填する制度がある。ATPのない年金生活者は所得税が控除されるが、それ以外の人には年金収入に応じて所得税を払うのは当然である。贅沢をしなければ、

第14表 年齢別高齢者人口と年齢別構成比

(1998年12月31日)

年 齢	年齢別高齢者人口	年齢別構成率	
65～69歳	384,467人	25.0%	71.9% (65～79歳)
70～74	373,188	24.3	
75～79	347,368	22.6	
80～84	234,565	15.3	28.1% (80歳以上)
85～89	137,571	8.9	
90～94	49,917	3.2	
95～	10,580	0.7	
65歳以上人口	1,537,656人	100.0%	

STATISTISK ÅRSBOK for Sverige 2000

第15表 国民老齢年金と住宅手当金

単位 年額 (kr)

老 齢 年 金	年 金 額
国民老齢年金 (単身)	35,136kr
国民老齢年金 (夫婦、1人当たり)	28,731kr
国民年金加算金 (1人)	20,824kr

(NACKA社会保険事務所)

- 1) スウェーデン国内に40年以上住んでいて、30年以上、働いた経験があるという両方の条件を充足することが条件 (ATPの場合)
- 2) 収入が老齢年金のみなど低所得の高齢者には月額3,510krを限度に住宅手当金が支給される
- 3) 国民年金加算金は、国民老齢年金のみか、ATPがごくわずかな高齢者に加算される
- 4) 国民老齢年金と国民年金加算金のみの人が無課税の限度額

だれでもが普通の生活ができる収入を手にする仕組みになっている。したがって老後に備えた貯金の必要はない。今年から年金制度の改革があり、ブルーカラーとホワイトカラーの格差を是正し、長期的展望のある年金制度に手直しをし、評判は上々であるという。

衣食にはたいして費用を要しないが住宅費はかさむ。そこで収入の低い年金生活者に住宅費が支給される。早期年金生活者である障害者や、子どもがいて収入が低い親にも住宅手当金が支給されるが、高齢の年金生活者にも同様の制度がある。ホームヘルパーが派遣されても自宅での生活がむずかしくなれば、同じ地域の年金生活者マンションへ入居するが、家賃は基本的には個人負担である。収入が低い高齢者は住宅手当金でまかなえばよく、必要ならだれでも利用できる老人マンションである。第15表に、国民老齢年金と住宅手当金について示す。生活できる年金と住宅は安定した高齢期に不可欠な条件である。

(2) ホームヘルプ (Hemtjänst, Hemhjälp) が主流の介護

日本人が高齢期を迎える最大の不安は、自由に身体が動かなくなったり、痴呆になった場合で、自分のことを自分で処することができる、他人からの援助が必要になったときのことである。日本の介護保険による介護サービスに該当する多くは、スウェーデンではコミュニティ(市町村)が担当し、税金でまかなわれる。ホームヘルプもコミュニティの役割で、ホームヘルパーの確保と高齢者をはじめ障害者の自宅へのホームヘルパーの派遣とホームヘルプの内容の決定などがある。

第16表は、年齢別、男女別にホームヘルプ利用者を示す。利用者の総数は、人口の1.59%に相当する。表に見るように、利用者全体のうち、障害者など64歳以下は10%、65歳から79歳が30%、80歳以上が60%となり、超高齢者が全体の5分の3を占めていることがわかる。第17表にホームヘルプの概要を示す。

なるべくながく住み慣れた自宅での生活が維持できるようにホームヘルプや訪問看護がなされるが、限界がある高齢者もいる。その場合は地域の年金生活者マンション(Socialbostad)への入居がありうる。マンション形式で年金生活者用に60㎡どが確保され、車椅子でも移動可能なのはもちろん、その一画にホームヘルプサービスセンター、クリニック、レストランなどがある場合が多い。昼間はもちろん夜間でも介護や看護が得られ、緊急対応も可能な態勢になっているので、入居者は安心ができる。精神的、身体的に弱くなった高齢者には最適の居住形態である。

しかし痴呆が進行し、年金生活者マンションでの生活が無理になった場合にのみ、老人ホームがある。雑居状態ではなく、個別の空間にベッドルームとトイレやシャワー、場合によってはミニキッチンが付設され、プライバシーが守られる。

年金生活者マンションも老人ホームもコミュニティが担当し、老いて必要となる介護を、社会の連帯で解決している。介護や看護に当たる専門職はコミュニティの職員である(一部民間に委託)。その娘や息子の子ども世代は稼働年齢で男性のみならず女性も働いているから、親の世話に当たることはむずかしい。しかし親子の交流は活発で、精神的絆は強い。現状認識は現在の稼働年齢の人が高齢期を迎えるにあたっての安心感にも通じ、税金が効果的に使われている結果を、親世代へのサービスを通して見極めていくからである。



写真15 高齢者が普通に生活する社会

第16表 ホームヘルプサービス利用者

	80歳以上	65歳～79歳	64歳以下	計
男 性	22,757人	15,370人	7,092人	45,219人
女 性	61,496	26,426	7,605	95,527
計	84,253人	41,796人	14,697人	140,746人
構 成 比	59.9%	29.7%	10.4%	100.0%

STATISTISK ÅRSBOK for Sverige 2000

第17表 生活介護と医療介護のホームヘルプ

ホームヘルプの人員	介護福祉士および准看護婦
ホームヘルプの対象	年金生活者マンションに住む高齢者と地域の住民
時間帯	ホームヘルプは朝7時から夜8時まで この時間帯以外は夜間パトロールグループが担当
ホームヘルプ（生活介護）	身体の清潔（シャワー） 着替え（朝と晩） ベッドメイキング 調理（朝食、簡単な昼食、夕食） 年金生活者マンションの食堂への誘導、送迎 投薬など（点眼薬・点耳薬・服用する薬を日時ごとに分類） 掃除 洗濯 散歩 話し相手と電話確認
ホームヘルプ（責任者）	買い物 銀行との連絡（責任者のみが実施） 処方箋と薬の管理 親戚との連絡 医療機関や美容院への付添い 金銭の管理（銀行や郵便局との連絡） 介護の適性についての判断 衣類の買い物（身内や親戚などがいない場合）
ホームヘルプ（医療介護）	補助器具の取扱い、申請、管理 クリスマスと復活祭の室内の飾り付け インシュリン注射 血圧測定 血液検査のための血液採取 ガーゼ交換 人工肛門の交換 カテーテルの交換と洗浄 （保健婦から委譲され、准看護婦が実施） 銀行との連絡（責任者のみが実施）

介護内容や頻度は利用者の必要度に応じて行う（資料 NYKÖPING KOMMUN）



写真16 高齢者も障害者も普通の生活を営む

まとめと考察

(1) 人権の尊重と男女平等

ライフステージに応じた社会サービスが適切に提供される背景には、徹底した人権の尊重がある。世界的にも「オンブズマン」の手本とされるのは、スウェーデンの「国会オンブツマンJ0」(justitie ombudsman)で、行政ににらみをきかせている。J0は1800年代初期から始まり、すでに200年近くの歴史をもつ。人権に対する意識も一朝一夕に出来上がったものではない。これとは別に政府が任命するオンブツマンとして消費者、男女機会均等、人種差別反対、児童、障害者のオンブツマンがある。ほかにマスコミ業界の当事者による報道倫理オンブツマンがある。J0はもちろんこれらのオンブツマンは、日本の各種オンブズマンとは違って大きな力と信頼をもっている。

最近同性愛者のオンブツマンができたというが、未確認の新聞情報である。

政府任命の男女機会均等オンブツマン(2000年現在、男性が務める)がいるが、男女平等を抜きにはスウェーデンのライフステージを論ずることはできない。結論から先に言えば、女性と男性の違いは、女性が妊娠と出産が可能であるというだけである。育児は女性でなくても男性にもできるから父親と母親の両方で行うし、労働も男性でなくても女性にもできるから男女共に働き、税金を男女で

納める。

1994年の総選挙で、世界で初めて国会議員の40%を女性が占め、現在、大臣の半数以上が女性である。今年2000年9月に、労働者の半数が加入する最大の労働組合LO(LANDSORGANISATIONEN)は、102年の歴史で初めて女性のワーニヤ・ルンドビー・ヴェディーン Wanija Lundby-Wedin を代表に選ぶ話題となった。

子どもは幼い頃から労働と余暇の関係のみならず、家庭内外の男女平等について学ぶ機会がある。生まれたときから両親が働き、両親が休暇を楽しむ姿、これが普通の暮らしである。保育園の頃から男女の身体の違いを学びながら大工仕事を男女共に行うし、基礎学校を通して男女平等の実際を体験する。高校は職業人の養成であるからよき労働者がつくられる。こうして男女平等の行動パターンと労働の構えが成人になるまでにできあがる。

育児休業中の男性の子育ても板につき、いわゆる管理職の女性の態度も自然である。要するに政策にも行政にも、企業にも女性が男性同様に参画し、男性主導型の社会ではない。しかし企業トップである社長クラスに女性が少ないことや、未だに男女間に賃金格差があったり、育児休業をとる男性が女性に比較して少ないことなど、今後改革すべき課題としてあがってきている。

(2) 政治の安定

政策決定までに、日頃から交流のある労働組合、社会・経済団体、文化団体から意見を聞き、調整し、合意にたどり着き、政策の最終決定に国民や住民の声が盛り込まれる仕組みになっている。主な政党は社会民主党、穏健党、国民党、左派政党、環境党、中央党、キリスト教民主党などである。

スウェーデン社会において、国民全員が揺りかごから墓場まで定安した生活が送れる約束がなされる最大の理由は、賢明な政治の舵取りであろう。とくに税制の堅実さは社会サービスに反映され、集めた税金や社会保険料は

社会福祉サービスや社会保障によって富の再配分がなされる。いかに再配分するかは政策にかかっている。経済保障担当の国、医療担当の県、福祉や教育を含む生活サービス担当のコミューンの政治家への国民や住民の期待は大きく、4年に1度の総選挙の投票率は80%と高い。

富の再配分の法則が生活に的確に反映されるメカニズムが完成している。景気を刺激し産業が活発化すれば、企業の儲けや個人の財布のみならず、国やコミューンの財政を潤し、社会福祉や社会保障への見返りのあることを人びとは知っている。したがって産業育成に政治は懸命である。

今日のスウェーデン社会を築くのに大きな力になった社会民主党は、H・ブランティングによって発足した。組織力抜群の労働組合LOを支持基盤に、1914年以来、第1党を維持してきている。過去2回の世界大戦に巻き込まれなかったスウェーデンは国の財産を失わず、国民に密着した政治が安定した社会を形成してきた。また、第2次世界大戦中、社会民主党の党首であったP・A・ハンソンが戦争回避に成功したからであり、「国民の家」という国家論は彼の考え方である。1940年に社会民主党は過半数を獲得し、1944年に「完全雇用」「公正な配分と生活水準の向上」「生産効率の向上と産業生活における民主主義」を発表した。1946年にハンソンは仕事半ばにしてこの世を去るが、その後1969年まで首相を務めた社会民主党のT・エルランゲルは、「国民の父」として愛され、この間に福祉政策を実行し、スウェーデンは福祉国家として充実した。同じ路線をO・パルメが受け継ぐ。今日のスウェーデンを築いたのは、ブランティング、ハンソン、エルランゲル、パルメというスウェーデンが生んだ名党主のリレーであった。

1991年から1994年の間は保守4党連合政権であったが、1994年から再び社会民主党が政権をついた。現在の与党である社会民衆党は左派政党（共産党）および環境党との閣

外協力のもとに政策を進め、保守系穏健党を蚊帳の外に置くことに成功している。現在の社会民主党の党首はヨーラン・パーション Goran Persson で、副党首は女性のモーナ・サリーン Mona Sahlin である。彼女は左派政党党首である女性グュードゥルン・シーマン Gurdrun Schyman とともに国民の人気投票では上位に位置する。政治の世界も男女を問わず実力が勝負である。

(3) 生涯にわたる保障と財源

揺りかごから墓場までの保障は、保護や介護を要する世代を稼働年齢が社会サービスという社会的連帯で支え、労働による収入と社会保障によって所得保障するという両面がある。どちらが欠けても生涯は保障されない。子どもは保護を受ける存在であり、稼働年齢中は男女を問わず労働し財源を生み出し、定年後は所得保障と介護が受けられる約束がされている。人間の発達と衰退、人生のライフステージに応じた社会の対応である。

子育てを楽しむカップルを見ていると、職業をもつ日本女性が子育てとの両立に悩んだり、老親の介護のために長年続けてきた仕事を断念する姿は不自然である。夫婦で共同で行う子育ては、子どもにとっては父母からの最高の贈り物であって、逆に子育てが母親に任され、父親不在の状態は歪んだ育児である。

地方自治体コミューン（市町村）の大きな仕事は、高齢者や障害者のホームヘルプと並んで義務教育（基礎学校の9年間）と高校教育からなる学校教育である。次世代に対する期待は大きく、小規模クラスの個人尊重の教育で、高校まで給食がある。高等学校は大学への進学者を別にすれば、徹底した職業準備教育で、高校を卒業すれば、経済的にも自立し、それだけに選挙権も18歳からと早い。大人の仲間入りである。

稼働年齢の人は男女ともに働く。家計を夫婦で維持するのはもちろん、教育や福祉など社会サービスのための財源を税金として納め、企業は労働者に賃金を支払い、かつ所得保障

第18表 社会保障費（1998年）

経済保障費内訳	支出（百万kr）	支出合計に占める率
家族と児童の経済保障費（計）	43,888百万kr	（14.8%）
育児休業手当金	14,129	
児童手当金	16,830	
子どものいる家族に対する住宅手当金	5,749	
障害児に対する介護手当金	1,656	
養育費立替金	4,584	
遺児年金 国民基礎年金	286	
国民付加年金	634	
養子養育手当金	20	
疾病・障害の経済保障（計）	74,695百万kr	（25.2%）
療養手当金 疾病およびリハビリ手当金	20,761	
医療費手当	1,880	
障害年金 国民基礎年金	13,554	
国民付加年金	23,610	
障害年金者への住宅手当金	2,346	
障害加算金	996	
労働災害の休業手当金	6,010	
障害者の自家用車取得補助金	212	
介護人費用	5,192	
その他の手当金	134	
高齢者等の経済保障（計）	161,718百万kr	（54.6%）
老齢年金 国民基礎年金	52,674	
国民付加年金	88,900	
遺族（寡婦）年金 国民基礎年金	476	
国民付加年金	11,718	
年金生活者への住宅手当金	7,245	
パートタイム（部分）年金	585	
その他の年金	120	
その他の支出（計）	9,476百万kr	（3.2%）
職業訓練手当金	8,737	
徴兵手当金（日当）	10	
徴兵の家族手当	260	
その他	469	
行政事務	6,477百万kr	（2.2%）
社会保障費の合計	296,254百万kr	（100.0%）

や各種手当、年金などの財源である社会保険料を捻出する。もう明らかなように産業が発展しなければ社会の充実はない。働き賃金を得るだけが人生ではなく、適度な労働時間を働いて、休暇を楽しむという。健全な生活ぶりである。過労死や長時間労働とは反対の極にある。

疾病による休業保障はもちろん、後遺症が残った人や障害者が普通に生活できる約束が社会にあるので、施設への入所を強いられたり、社会の片隅に追いやられないことを社会の構成員は知っている。高齢になって身体が不自由となったり、痴呆になってもぎりぎりまで住み慣れた自宅での介護が続けられるホームヘルプサービスがある。

ここで第18表にスウェーデンの社会保障費を示す。これを捻出するのがスウェーデン人であるならば、これによって安心した暮らしができるのもスウェーデン人である。

(4) 子どもから高齢者まで学習する

保育園は1998年から就学前学校として位置づけられて今日に至っていることは本文で述べた。親や社会からの保護が必要な幼子も、学習する存在である。教育は基礎学校の9年間と高等学校の3年間で、社会へ出て職業人として十分に通用する人間の教育を完了することも述べたが、適切な教育がなされれば子どもは学習能力を発揮することがわかる。

学校教育を修了した後も、スウェーデンでは生涯教育の機会がある。移民者には手当つきでのスウェーデン語コースが準備される。乳幼児から高齢者までライフステージを通過するが、そのライフステージに応じた学習の可能性と機会が設けられている。

人間は学習存在である。この小論を閉じるに当たって、「På kurs for att hanga med sin tid」(DN2000年8月29日)というシニアページの記事を紹介しよう。

「今の時代に後れを取らないためのコース」という、高齢者の生涯学習についての内容である。通称 PRO と呼ばれる年金生活者団体

があり、加入者は38万人である(ちなみに高齢者人口全体で154万人である)。社会民主党系の組織で大衆運動の歴史があるという。PROは全国に支部を有し、国民大学(Folkhogskola)として地域に応じて高齢者向けの学習コースを設けている。地方のPROのレクチャー、健康体操、ピクニックなど国民大学の内容や、例として91歳の女性が、同じく年金生活者の娘と国民大学で、コースに学ぶ様子を紹介している。

この記事に記されている結論を引用して、この小論の結論としたい。

「高齢になるとは加齢に合わせることであり、新しい社会情報や知識を必要としており、学ぶことは民主主義の基本原則のひとつで、社会にとっても大切である。」

揺りかごから墓場まで、スウェーデン人のライフステージを追ってみた。

ストックホルムの場合、教会所属の墓地を除けば北と南に大きな墓地があり、そこに火葬場もある。市民はそのいずれかの墓地に入る。スウェーデン全体としては火葬が90%で、最近では散骨も増加しているという(DN1999年7月29日)。写真17は、往年のハリウッド女優グレータ・ガルボ(Greta Garbo 1905~1990年)の墓碑で、南墓地(skogskyrkogården)に里帰りし、眠る。

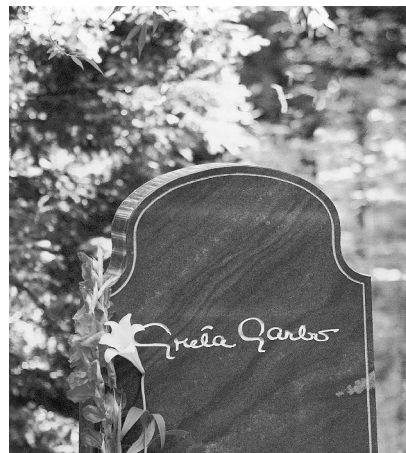


写真17 揺りかごから墓場まで